日産自動車、EVコンセプトカー第一弾「ニッサン ハイパーアーバン」を発表

日産自動車株式会社　　2023年10月03日

日産自動車株式会社（本社：神奈川県横浜市西区、社長：内田 誠）は3日、JAPAN MOBILITY SHOW 2023（ジャパンモビリティショー2023。一般公開日：2023年10月28日（土）～11月5日（日）、場所：東京ビッグサイト）に出展するEVコンセプトカーの第一弾として、「ニッサン ハイパーアーバン」（デジタルモデル）を、日産テクニカルセンター内に新設されたデザインプレゼンテーションホール*にて発表しました。

*デザインプレゼンテーションホール

日産は同ショーで、人々の生活を豊かにする革新的な技術を搭載した魅力あふれるコンセプトカーをラインアップします。今後、順次発表*1していく各コンセプトカーには、象徴的なお客さまをイメージしたキャラクターを設定し、キャラクターがクルマと過ごすシーンを通じて、ワクワクする未来の社会を表現します。

「ニッサン ハイパーアーバン」は、環境や社会課題への意識が高く、今あるものを大切に使い続ける持続可能なライフスタイルを追求しながら、都市や郊外といった場所を問わずにアクティブに活動するお客さまに向けたクロスオーバーEVです。

本モデルは、ソフトウェアを常に最新の状態にアップデートし、必要に応じてハードウェアであるクルマのパーツなどを一新していくことで、お客さまのさまざまな趣向に応え、より長く、より愛着を持って乗り続けていただくことを可能としています。例えば、インテリア全体の雰囲気をリフレッシュしたいときには、最新のグラフィカル・ユーザー・インターフェース（GUI）にアップデートしたり、好みにあわせてインストルメントパネルを交換したりすることもできます。

また、バッテリーに蓄えた電力を自宅や店舗、オフィスなどに給電することができるV2X（Vehicle-to-Everything）機能により、クルマに乗っているときだけでなく、駐車時にもEVの機能を最大限活用することができます。V2Xを行う際には、日産独自の制御コンセプト、Intelligent Charging Management Systemが、クルマへの充電や建物への給電をAIによって自律的にコントロールし、電力を効率的にマネジメントします。これにより、再生可能エネルギーの有効活用や電力のピークカットにも貢献し、EV用バッテリーがもたらす価値を最大化します。

エクステリアは、時間帯や光の陰影で表情を変える都会的なライムイエローのボディカラーを基調としています。ヘッドライトからリヤコンビネーションランプまで、ボディサイドを前後に突き抜けるようなブラックのラインをあしらい、そのラインと交差するようにリアフェンダーへと落ちていくハイライトとの組み合わせによって、存在感を際立たせています。高い居住性を確保しながらデザインされたスポーティーなシルエットは、空力性能に優れ、四隅に配置された大径タイヤとあわせてダイナミックでモダンな佇まいを表現しています。

インテリアは、都市での生活空間に溶け込むようにデザインされています。万華鏡から着想を得た三角形で構成されたインストルメントパネルやディスプレイに映し出されるHMI（Human Machine Interface）は、オーナーの気分によって演出を変えることができます。また、フロントシートのアレンジを変更することで、ソファに座っているかのようなプライベート空間を実現します。駐車時には日常の忙しさから解放され、実用的でありながらリラックスできる、くつろぎの室内空間となります。上方に大きく開く特徴的なドアは、乗り降りのしやすさだけでなく、圧倒的な解放感をもたらします。

*1 10月10日（火）、17日（火）、19日（木）に発表する予定です。